

来所相談開始後の流れ～不登校の相談を例に～

(所報「すこやかさん」第37号を基に作成)



電話による申込み・担当者決定・初回面接日程決定



初回面接（インテーク面接）

初回面接はこれから共に考え支えていく関係を築くため、とても大切なものです。不登校に至った経緯、現状や家族の様子等について伺います。来所相談のシステム、守秘義務、保護者の同意をもとに学校連携ができることなどを説明します。必要に応じて医療機関や他の専門機関を紹介したり、連携を勧めたりすることもあります。お子さんも来られるような場合は、別の担当者を付け、並行面接（※）を行います。保護者のみでの御相談でも可能です。

（※）並行面接とは、お子さんの問題の解決のために、お子さん本人の面接を行うとともに深くかわりのある方（保護者）の面接を行うことです。お子さんには子供面接担当者、保護者には保護者面接担当者がそれぞれついて、別々の部屋で面接を行います。

継続面接（毎週～月1回程度の間隔）

保護者面接

お子さんへの心配や不安、お子さんと関わる際のつらさやいらだちを受け止め、保護者を支えていきます。幼少期からの様子を伺い、共に考えることでお子さんへの理解を深め、その上で今どう関わればよいのかといった助言をします。相談を続けていく中で、お子さんの自立に伴う反抗を受ける辛さや親離れしていく寂しさもお支えます。

本人（お子さん）面接

お子さん自身が抱える不安や怒りを受け止めます。傷つきや挫折感、自信のなさ等乗り越えるためには長い時間を要します。言葉で自分の気持ちを語れないお子さんには、プレイセラピーや箱庭療法等、お子さんの年齢や性格に合わせた表現方法を通して関わります。お子さんの特徴を捉えるため、心理テストを行うこともあります。

お子さん自身や周囲の環境の変化

家での生活が安定し、心身のエネルギーが貯まってくる中で、お子さんが徐々に学校や家の外の世界につながっていきます。

再登校・再出発

高校生相当年齢の場合、登校を再開する以外にも、別の高校での再出発や、高等学校卒業程度認定資格を取得し、上級学校への進学を目指したり、アルバイトを行い社会性と勤労性を身に付けたりして、自分に自信が持てるようになります。

お子さんの生活が安定し、相談の頻度が減ると、終結が近づきます。相談終了時期は、一人一人異なります。

終結後

終結後も1年間はフォローアップ期間とし、不安になったらいつでも相談できる体制を約束しています。

（事例1 中学2年生Aさん）

Aさんは小学生の頃から習い事が多く、親から期待が大きく寄せられ頑張り屋でした。中学生になり、ちょっとした友達とのトラブルがきっかけで学校へ行けなくなり、来所相談に通ってくるようになりました。親子並行面接（※上記参照）を始め、母親は今までのAさんへの期待などを振り返り、関わり方を変え、Aさんはプレイセラピーの中で、やり残してきたことをするかのようない遊びや、周囲の大人への怒りを表しているかのような攻撃的な遊びを繰り返していきました。遊びが落ち着いてきた時期に中3となり、「高校に行く」と目標を持ち、学校に通えるようになりました。

（事例2 高校2年生Bさん）

コミュニケーションが苦手でありじめられた経験があるBさんは、高校入学後、徐々に欠席が増え、何とか進級したものの全く登校ができなくなりました。ネットゲームで昼夜が逆転し、父親は「学校に行け」と怒鳴る毎日で、Bさんが暴れたのをきっかけに母親が来所しました。両親が怒るのではなく、行けなくなったBさん自身の不安や焦りを理解し、家の中での関わりを変えていくことで、Bさんは落ち着き、本人も来所するようになりました。心理テストを受けて自己理解を深めたり、アルバイトをして自信を付けたりしていく中で、Bさんは大学進学を考え始め、高等学校卒業程度認定試験を受けることを決めました。